

## 2020 年度 橋本財団福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	いっばんしゃだんほうじん おかやましょうがいしゃぶんかげいじゅつきょうかい	
団体名	一般社団法人 岡山障害者文化芸術協会	
代表者名	代表理事 阪本文雄	
連絡先	住所	〒700-0904 岡山市北区柳町1丁目4-8 ヒカリホールディングスビル208号室
	TEL	086-230-2881
	E-mail	bungeikyo@kiraboshi-art.com
	URL	<a href="https://kiraboshi-art.com/">https://kiraboshi-art.com/</a>
設立年（西暦）	2018 年	
助成活動名	岡山県障害者文化芸術支援総合事業	
助成額	1,000,000 円	
活動内容	目的	岡山に暮らす障害のある方が文化芸術を享受し、その担い手、作家となり創作に取り組めるよう、創作と生活（進学・就業など）の両立のための支援が身近に受けられる社会を目指す。著作権など権利擁護、作家の生活や作品の保管、展示に関する相談窓口の設置、障害者アート支援組織・支援者ネットワークづくり、作品がいつでも見られる常設展示の場の整備を目指す。
	内容	2020 年 10 月 10 日から 31 日まで「きらめく星たち」をテーマに、第 4 回きらぼし★アート展を倉敷市中央の加計美術館で開催した。絵画、造形、写真に 298 点の応募があり、一次審査を通過した入選作品 81 点（絵画 50、造形 16、写真 15）を展示した。会期初日には出展作家が作品を紹介し創作活動への思いを語るアーティスト・トークが企画されたほか、一般財団法人たんぼぼの家（奈良市）の播磨靖夫理事長、児島塊太郎加計美術館館長が記念講演し、シンポジウムでは播磨氏と大原謙一郎大原美術館名誉館長、児島館長、伊東香織倉敷市長が意見を述べた。会期中、障害のあるなしに関わらずアートを楽しめる写真教室や缶バッチづくりのイベントも開催。会期終了後、同展で入賞経験がある制作者 3 人の絵をプリントした T シャツと布製エコバッグを初めて製作し、協賛企業・団体に配布した。また、展示作すべてを収録した図録の制作に加え、コロナ禍で会場に足を運べなかったとの声に応え、展示作品をインターネット上で鑑賞できる HP を設けた。
	成果	2017 年からの継続開催により、岡山で暮らす障害者アート公募展として「きらぼし★アート展」が認知されてきており、応募作品のレベルが上がったとの評価もあった。本助成を活用し、今回初めてのチャレンジとなったグッズ製作プロジェクトは、障害のあるアート作家の創作活動が仕事につながることへの第一歩として大変意義のある取り組みとなった。これまでの実績により、同アート展のメイン主催団体である（一社）岡山障害者文化芸術協会は、同年秋季に岡山市北区下石井の下石井公園へ障害者福祉施設を建設することが岡山市より許可された。施設には障害者アーティストらが働く就労継続支援 A 型事業所、一般企業への就職などを目指して訓練する就労移行支援事業所を設け、テラス席のあるカフェやアートギャラリーも整備し、地域に開かれた障害者の活躍の場を提供する。

今後の課題と対応策

これまで課題となっていた「障害のある方のアート作品の常設展示場の整備」や「障害のある作家の就労や進学など今後の生活と創作との両立のための仕組みづくり」を解決すべく、2021年度建設される施設には就労継続支援A型事業所、就労移行支援事業所が設けられる。施設運営を軌道に載せ、障害のある方やその支援者らが、安心して相談できる存在になることが重要となる。また、障害のある方が製作するアート作品や障害者就労について理解を広げる取り組みを企画・発信し、岡山県内はもとより、県外へも取り組みの輪を広げていくこと、賛同者を着実に増やしていくことが今後の大きな課題である。

就労継続支援A型事業所では、きらぼし★アート展で育った作家と雇用契約を結び、ギャラリーを働く場とする予定。就労移行支援事業所は岡山市街地にある企業へ障害のある方が通い職場実習を行う方針。施設を拠点に「きらぼし★アート展」を継続開催して作家発掘をすすめながら、障害のある方の創作活動や就労に責任を持てる「オール岡山体制」による持続可能な支援体制構築のため、自治体や特別支援学校、障害のある方をサポートしている法人や企業に積極的な連携を呼びかけていく。



会場風景

写真の提出



アーティスト・トーク



シンポジウム